

水土里のみちウォーキング in 仁井田 walk

「ウォーキングを通じて仁井田、四ツ小屋地区の美しい田園風景や心和む水辺空間など有形、無形の資源や農業用水路の役割の大切さや農業水利施設の維持管理の大切さを再発見するとともに、認識を深めてもらう。」をテーマに平成15年度から開催された大会も秋田県、県ウォーキング協会、県地域振興局、市農林部、教育委員会、水土里ネット秋田、県秋田花まるっグリーン・ツーリズムなど本当に多くの機関の方々のご協力により第10回を迎えることができました。

今年の大会はあいにくの雨模様の中、211名が14kmと6kmの2コースに分かれ定刻にスタートしましたが、途中、雨脚が強まり14kmコースは10kmに短縮して行われました。また、第10回の記念大会ということで参加者には記念カレンダーの作成やラジオの生放送が体験できる賞品の他、後援団体の花まるっグリーン・ツーリズムに加盟の農家民宿宿泊券が特別賞として当たる抽選会が特別企画として行われました。

雨の中での記念大会となってしまいましたが、多くのスタッフの協力により今年も参加者のみなさんに楽しんでもらうことができましたと思います。

今後はこれまでの経験を活かし、新たな21世紀創造運動を検討していきたいと思います。

10年間、ご協力いただいた全ての方々に、感謝申し上げます。



| 活動体制 | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実施主体 | 水土里ネット仁井田堰（仁井田堰土地改良区） |
| 後援・連携 | 県ウォーキング協会、秋田県、秋田市、市教育委員会 J A新あきた、秋田中央農業共済組合、水土里ネット秋田支部、水土里ネット秋田、エフエム椿台 秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会、秋田県サイクリング協会、秋田市勤労者福祉振興会 |
| 実施期間 | 平成24年6月17日 |
| 参加者 | 一般参加者211、スタッフ75人 計286人 |
| 報道関連 | 秋田魁新報、秋田の土地改良、共済組合新聞ほか |
| 活動実施年数 | 10年目（H15年～） |
| 連絡先 | 〒010-1421 秋田市仁井田本町4丁目5-20 仁井田堰土地改良区 TEL. 018-839-2504 |
| その他 | 秋田県奨励賞（H16）、東北地方大賞奨励賞（H16）、秋田県知事賞（H19） 秋田県地域振興局元気なふるさとづくり賞（H19）、東北地方大賞奨励賞（H20） 東北地方大賞奨励賞（H24） |

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット仁井田堰（伊藤 清栄）

| | |
|-------------|--------------------------------------------------------------------|
| ○活動の目標及び達成率 | 目標 参加者とスタッフへの感謝を込めて 達成率 85% |
| ○活動に対する評価 | ・記念大会ということで参加者へのサプライズ企画などで大会を盛り上げることができた。 スタッフにも楽しみながら参加してもらった。 |

| 判定基準 | 自己判定（達成度） | | 判定基準 | 自己判定（達成度） | |
|---------------|-----------|-------------------------------|--------------------------------|-----------|------------------------------------|
| | 判定 | 評価等 | | 判定 | 評価等 |
| 1. 取組体制について | | | ④運動のPR | A | インターネット、新聞広告、ラジオなど様々な媒体で広報活動を行っている |
| ①役職員・組合員の参加 | A | 例年、役職員全員で取り組んでいる | 4. 運動の成果 | | |
| ②後継者育成の工夫 | A | 今回も多くの支部職員に参加してもらったことができた | ①他組織との連携構築 | A | 実行委員会を設置し、運動理念の確認と横の連携を密にしている |
| 2. 活動の意義性について | | | ②地域住民等の理解 | B | 地域の子どもの間でも、認知度が上がっている |
| ①基本理念の設定 | A | 第1回目から変わらぬテーマで取り組んでいる | ③施設管理・地域資源の保全強化 | A | |
| ②地域の歴史等の伝承 | A | コース内の神社や歴史的施設を取り込んでいる | ④運動の地域づくりへの関わり | B | 農地・水と連携された保全活動が地域にも浸透してきている |
| ③運動の先駆性 | B | 参加者の安全安心とリピーターが増えるよう取り組んでいる | ⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献 | A | |
| 3. 運動の継続性・発展性 | | | ⑥地域農業振興への貢献 | B | 地元野菜の販売をすることで生産者からも喜ばれている |
| ①運動の継続性 | A | 無理のない範囲で活動している | 5. 今後の課題等について | | |
| ②運動の発展・拡大 | A | より多くの農業団体から支援してもらうよう働きかけている | ・少ない人数と、費用で行える新たな運動を模索する必要がある。 | | |
| ③運動の計画性 | A | 実行委員会を設置し、運動理念の確認と横の連携を密にしている | | | |

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他